

## 要約

キスジノミハムシは幼虫がダイコン表面を加害して商品価値を低下させる重要害虫です。これに対する効果的な防除法を開発しました。

## 研究成果の概要

## 1 背景・目的

キスジノミハムシはダイコンの重要害虫で、特に夏ダイコンでは被害が大きく、防除は欠かすことができません。

そこで、ダイコンの根部被害を最も軽減できる、粒剤と散布剤を組み合わせた防除体系の開発に取り組みました。

## 2 内容

- 播種時にフォース粒剤4kg/10aを種子と同程度の深さで播き溝に処理し、軽く土と混ぜます。
- 播種7日後から7日間隔でキスジノミハムシに効果の高い以下の薬剤を主体に茎葉散布します。なお、散布回数は、収穫までの生育日数が約60日では7回程度となります。

①パダンSG水溶剤

②スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤

③ベネビアOD

④ハチハチ乳剤

- 茎葉散布剤は、使用回数や施用時期を考慮し、同一薬剤を続けないよう組み合わせで散布します。

## 3 活用等

- キスジノミハムシの被害を防止し、ダイコンの良品生産が期待されます。
- 平成30年度指導参考資料としてまとめ、JA等の防除指導に活用されています。



キスジノミハムシ成虫



幼虫によるダイコンの被害と幼虫

## 関連情報

- 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用してください。「農薬情報」([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))  
「農薬登録情報検索システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))  
また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、容器に表示された使用方法でなく、メーカーから周知されたチラシ等に従ってください。

野菜研究所 病虫部

Tel. 0176-53-7171

E-mail nou\_yasai@aomori-itc.or.jp



青森産技

あおもりの未来  
技術でサポート